

令和2年度 学力向上指導改善プラン

小野小学校長 木久 整

学校教育目標		心豊かにたくましく自ら学び 人とつながる小野っ子の育成			
推進主体		管理職、学校教育改革推進委員会を中心とした学力向上委員会			
学力に関する前年度の状況・経年の課題等					
学力の状況	全国学力・学習状況調査結果の状況(国語、算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む)	国語	・小規模、少人数の中で、一人ひとりの発表の機会を保障することで自分の考えを表現する力が伸びている。少人数学習のよさを活かし、さらに言語力、表現力の育成を継続していく。 ・書くことへの苦手意識を持っている児童が多い。基本となる漢字の読み書きや筋道を立てて順序良く文章を書くことが課題となる。	・自分の考えを持ち、友達の意見と似ているところや違うところを比べながら聞いて、交流を深めながら、言語活動を活性化させる。 ・自分の考えを「書く」ことを積極的に取り入れ、授業展開を工夫する。	・相手や目的、意図に応じて話す順序や構成を工夫し、適切な言葉づかいで話したり、説明したりする能力を高める。 ・漢字の読み書きについて学校と家庭の学習を継続し、毎日の学習を通して単元テストを目安にしながら定着を図る。 ・教科書を視写する、決まった文字数で要旨をまとめる、学習の「ふりかえり」を日常化する、日記指導等を通して文を書く機会を取り入れる。
		算数・数学	・題意を丁寧に読み取ったり、問題の解き方を説明したりして算数における表現力を伸ばすことに取り組んでいる。 ・図や表を活用して発表すること、正確に情報を読み取ったり、資料を使って説明したりすることに課題がある。基礎基本の定着、計算力の向上とともに題意に応じた思考・表現の方法を高めていく必要がある。	・単元テストの平均正答率で、到達度の目安となる全国平均正答率を上回る。	・図を用いて考える機会を多くとり、説明や質問を通して理解を深め、主体的に学ぶことができる授業を展開する。 ・数図ブロックや数え棒、お金(模型)など具体物や半具体物を活用するなどして題意把握を丁寧に行い、自力解決を促すことで、自ら考えられる授業を展開する。 ・計算について学校と家庭での学習を継続し、毎日の家庭学習を通して計算力の向上を目指す。
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	・帯時間等を利用して繰り返し練習問題等に取り組むことで一定の力をつけている。 ・個別の学力差により対応できるように、支援の工夫や環境整備を進める必要がある。	・すべての児童が学び合う喜びを感じる授業づくりを進める。 ・児童一人ひとりに対応した学習支援を行っていく。	・個別学習、補充学習等により、確実な定着を図り、単元テスト等で見取っていく。	・年度初めの学力テスト等で、各児童の学力の把握を行い、その結果を授業改善に活かす。 ・朝学習や授業始めに取り組むとともに、家庭と連絡を取って個別の補充学習ができるようにする。
	授業等からうかがえる状況(各教科)	・与えられた課題に粘り強く取り組む力がついてきたが、長文や応用問題に対しては最初からあきらめてしまう傾向がある。 ・児童・保護者アンケートからは、授業中の発表や発言など、表現力について肯定的評価が高まってきており、取組を継続していくことが重要である。	・児童が主体的に学び、一人ひとりの能力が発揮できるよう、さらに授業改善を進める。	・落ち着いて学習できる環境づくりとともに、児童が取組を通して達成感や充実感を味わうことができるような授業展開を工夫し、学習意欲を高める。	・学級づくりを基盤として授業規律を確立し、とまどうことなく学習に参加できるよう学習環境を整える。 ・学習の「めあて」と「ふりかえり」を運動させ、児童が自ら学習に向かえるよう、自分自身の学びや成長を実感する機会をもたせる。
学習力等傾向の・上況生活係習る慣学	全国学力・学習状況調査の質問紙の状況	(前年度) ・朝食、起床時刻、睡眠時間といった生活習慣については、定着が図られてきているが、就寝時刻については、依然として課題が見受けられる。さらなる啓発と取組を進める。 ・算数に関するアンケートから学びの意欲の高まりがうかがえ、本年度もガイドが学習を進める中で主体的に学習しようとする意識を醸成させていく。	・より良い基本的生活習慣の定着に努め、「早寝、早起き、朝ごはん」やゲーム時間のルール作りなど、家庭での過ごし方も含めた生活の改善を進める。 ・家庭学習の手引き「がんばれ小野っ子」の有効活用を呼びかけ、家庭学習の充実と宿題以外の学習にも取り組んでいけるよう家庭と連携していく。	・基本的生活習慣の定着の重要性を保護者に発信し、家庭と協力して、より良い生活習慣の定着を図る。 ・家庭学習の課題について、家庭学習の手引き「がんばれ小野っ子」等で具体例を示し、児童の取組を評価して、家庭での学習習慣の確立を図る。	・学校だより、保健だより、学年通信、家庭訪問、個人懇談などでの情報発信を継続し、保護者の理解と協力を求める。 ・家庭学習の手引き「がんばれ小野っ子」の有効活用を呼びかけ、家庭学習の習慣化と宿題以外の学習にも取り組んでいけるよう家庭との連携を深めていく。 ・話し合い活動や、協働する活動を通して考えを深め、広げることができるように活動の充実と継続した指導を行う。 ・学校司書と連携して図書室の利用を活性化し、朝学習に読書タイムを設定する等、読むことの基礎となる力の向上、読書習慣の定着を図る。
	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	・安定した学校生活と家庭生活習慣が相関関係になっており、就寝時刻、ゲームなどの家庭での過ごし方も含めた生活の改善、習慣化を図り、好循環を生むように取り組んでいく。 ・児童・保護者アンケートから、「家庭学習の手引き」の活用について、肯定的評価が少なかつたことから、啓発を続ける必要がある。	・教材研究を深め、ねらいを明確にし、児童の主体的な学びにつながるガイド学習の研究を進める。	・目標の達成に向け組織的、計画的に校内研究を進める。	・一人一授業公開を原則として授業研究に取り組み、事前研・事後研を通して授業の改善、支援の方法などの共有化を図る。 ・授業実践記録をまとめて交流し、よい実践のポイントを明らかにし、共有していく。
校内の研究状況・研修	校内研究の状況	・主体的に学習に取り組み、自分の考えを表現できる子の育成～子どもが見通しをもって進める算数科の学習を通して～」をテーマとし、算数科に焦点をあてた研究を進めていく。 ・算数科の研究で焦点化しているガイド学習について、発達段階に応じた支援の具体などを明確にし、さらに定着を図っていく。	・PDCAサイクルを全職員で共有し、学期ごとの取り組みを進める。	・具体的な目標を設定し、達成に向け組織的、計画的に進める。	・教育計画を中心に評価・共通理解を進めながら、ガイド学習、児童理解等について研修を行い、今日的課題に対応すべく取組を進める。
	校内研修の状況	・本校の特色を生かし、小規模・複式学級の課題解決につながるよう、研修のねらいを明確にして設定する。	・家庭・地域への積極的な情報発信と連携をさらに進める。	・学校だより、学年通信等で、さらに広く学校から情報を発信していく。	・中学校と校下の小学校4校で相互の授業参観、合同研修会を通じて情報を交流し、小中連携の内容をより深める。
家庭連・携種類間	家庭・地域等の状況	・保護者や地域の本校に対する支援・協力体制ができており、さらに通学の安全面での取組等を進める必要がある。 ・三田市の「学校のあり方協議会」の方針等もふまえながら、学校と地域の協働体制をさらに構築していく。	・これまでの四校交流会の取組を大切に、共通した学習規律の策定に向けた小中学校間の連携を深める。	・交流会、連絡会、担当者会等の定期的な開催をめざす。	
	小・中における教科連携等の状況	・授業参観や連絡会も含め、子どもたちの実態、課題、身につけさせたい力等の共通理解を図っていく。 ・連携担当者会や長期休業中の小中合同研修の実施等を今後も継続し、連携を推進していく。			

4月

2～3月

学力向上に向けての重点的な目標

成果となる目標

具体的な行動目標

年度末評価

(今年度の成果と来年度に向けた課題等)

評価